

事例番号 029 駅前拠点施設整備等で生活空間の充実(福島県郡山市)

1. 背景

郡山市は江戸後期より奥州街道の宿場町として栄え、明治期の安積疏水の開削・安積原野の開拓でさらに発展し、その後、県中央部に位置する地の利を生かし、東北有数の内陸型商工業都市として一層発展した。

このように古くから経済的に発展した都市であることから、中心市街地には昔ながらの間口が狭く奥行きが深い土地が多く、また、不整形な土地も多い。街路も昔からの狭小なものが多く、一方通行路が多くなっている。駅前広場は狭隘であり、駅周辺には公共施設も少ない。

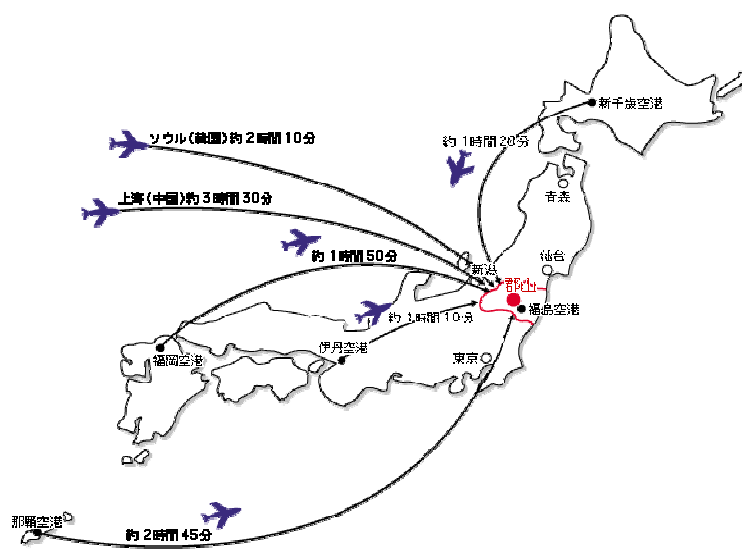
このような都市形態のままモータリゼーションの進展や消費者ニーズの多様化等の環境変化が進んだことから、かつては経済、社会活動の中核であった「中心市街地」の空洞化が顕著となってきた。

このような状況に対処するため、郡山市は、まずは郡山駅周辺を経済圏の表玄関にふさわしいものにすべく、市施行で「郡山駅西口第一種市街地再開発事業」を推進してきた。その整備目標は、土地の合理的かつ健全な高度利用を行うとともに駅前広場及び道路の拡充整備を行い、時代に対応する都市的魅力を備えた商業街区の形成と中心市街地の活性化を図ることであった。

同事業では、駅前という立地を活かすため、再開発ビルに市民の交流、学習等のための施設を導入することとし、2001(平成 13)年に竣工した同ビルは、市民プラザ、高齢者向け生涯学習施設、ふれあい科学館、高等学校等の公共公益施設と商業施設等から成る複合ビルとなった。

あわせて整備された駅前広場、中央広場、バスターミナル等の公共施設は交流拠点機能を高めることに大きく貢献している。駅前広場は、従前の約 2 倍に拡張され、バスプールが設置されたことで路上での乗降がなくなり、朝夕の渋滞が緩和された。また、新たに確保した中央広場のスペースが、市民や来訪者の憩いの場所として、また、様々なイベントを開催する場所として、広く活用されている。

本稿では、この市街地再開発事業を中心に、関連する施策もあわせて紹介する。



郡山市の位置 (資料: 郡山市ホームページ)



郡山市へのアクセス (資料: 郡山市ホームページ)



(資料: 郡山コンベンションビューローホームページ)

2. 目標

中心市街地活性化基本計画は以下の目標を掲げている。

① “水と緑と人がきらめく未来都市 郡山”の創造に向けて

「人」を主人公にし、人が住み、育ち、学び、働き、交流する「生活空間としての市街地」を舞台にして地域の自立を促進し、「水と緑」の歴史や文化を基調とする誇りの持てる魅力あふれる中心市街地を総合的に整備する。

② “複合的都市機能を持った中心市街地の形成”

「都市基盤整備」「商業の振興」「居住環境整備」「公共公益施設整備」の4本柱を基本としつつ「都市景観」「環境」に配慮した、『複合的都市機能の導入』による中心市街地の構築を目指す。



重点整備地区と整備方針（資料：中心市街地活性化基本計画）

3. 取り組みの体制

中心市街地活性化基本計画に基づき、基盤整備、公共公益施設整備等を公共が主体となって推進している。一方、商業施設等に関するハード、ソフト事業は民間が主体となって事業を推進し、相互に連携を図っている。各商店街では、ソフト(イベント)事業を実施することで来街者の増加や組合員の結束強化(実施過程の協議等を通じて)を図っている。

4. 具体策

(1) 郡山駅西口駅前広場整備

郡山駅西口駅前広場整備事業として、中央広場、ペDESTリアンデッキ、バス乗降場・タクシー乗車場、一般車駐車場の整備が行われた。中央広場は、多数の植栽やせせらぎ等を設けた「いこい」と「やすらぎ」の空間となり、ステージも設置され、様々な催しに対応できる多目的イベント広場となっている。ペDESTリアンデッキは、駅 2 階改札口と駅前広場、再開発ビル「ビッグアイ」、市街地とを連絡し、歩行者の利便性、安全性が確保されている。また、郡山駅西口駐車場や郡山駅西口第二自転車駐車をデッキで結ぶ歩行者ネットワークも形成されている。



ペDESTリアンデッキと動く歩道

(2) 「ビッグアイ」(再開発ビル)の建設

「ビッグアイ」は、地上 24 階、地下 1 階、高さ 133m の福島県内で最も高いビルである。21 世紀の郡山の新しい「顔」として整備された。商業、オフィス、公共公益、駐車場の 4 つの用途で構成されている。

所在地	郡山市駅前2丁目 11-1
用途	公共施設、事業所、商業施設等
敷地面積	5,207 m ²
延べ面積	約 51,900 m ² (容積対象面積 41,500 m ²)
施設内容	

- ・ 郡山市ふれあい科学館「スペースパーク」(20～24 階)
宇宙劇場(世界一地上から高い位置にあるプラネタリウム、ギネス認定)、展望ゾーン、展示ゾーン、研修ゾーンでから成る。
- ・ 事務所(15～19 階) インテリジェント対応型オフィス
- ・ 「福島県立郡山萌世高等学校」(8～14 階)
単位制による定時制・通信制課程があわせて設けられた新しいタイプの県立高校
- ・ 「市民プラザ」(6～7 階)
各種証明書や戸籍等の届出ができる「市民サービスセンター」、展示室、各種コーナーを備えた「市民ふれあいプラザ」、及び様々な用途に適合する会議室等を備えた「市民交流プラザ」の 3 施設から成る。
- ・ 商業施設「モルティ」(1～5 階)
「様々な目的の人が集まり、憩い、賑わい、自らの生活スタイル実現のための新しい情報、価値を発見できる場」をコンセプトにした専門店、飲食店中心の複合ショッピングゾーン
- ・ ビッグアイ駐車場 地上 8 階建ての立体自走式駐車場(437 台収容可能)



郡山駅前広場、市街地再開発事業「ビッグアイ」(写真提供:郡山市、以下同じ)

駅周辺では、既存の商店街や核的大型店の充実の強化を図りながら商業機能の整備を促進し、居住機能、公共公益機能、交流機能等が有機的に結合した拠点形成を図っている。骨格となる道路基盤施設及び歩行空間等の整備を推進し、駅北核、駅南核、中町核、大町核の連携を強化し（「四核構想」）、中心市街地全体の活性化を図っている。

(3) 「くらしのみちゾーン」の整備

郡山市中心市街地地区を対象として、以下の内容の「くらしのみちゾーン」の整備が行われている。

① 事業目的

中心市街地内の交通をコントロールし、居住者の安全性向上とともに賑わいのある歩行者回遊空間の形成を図る。また、細街路を含めた歩道の高質化舗装を行い、「水と緑と人がきらめく未来都市 郡山」にふさわしい、ゆとりと潤いのある空間の形成を図る。

② 主な事業内容

- ・ 細街路の安全な歩行空間確保のためのカラー舗装区分などによる歩車共存道路の整備（舗装高質化）
- ・ 駅前大通りの車線数見直しと合わせた歩道拡幅による安全な歩行区間の整備

③ 実施体制・活動内容

2001(平成13)年度に駅前大通り2車線化の社会実験が実施された。また、2003(平成15)年3月に駅前大通りのシンボルロード整備事業のあり方について「タウンミーティング」が行われ、1車線減らして歩道を拡幅する考え方について市民の間で意見交換がなされ、その有効性や課題が整理された。そして、それが歩道の高質化やアーケードの建替え等の事業実施に結びついた。

2004(平成16)年度には「郡山にぎわい・夢カフェ社会実験」として郡山市中心市街地の「なかまち夢通り」においてオープンカフェが実施され、賑わい創出の有効性や課題について検証が行われた。

2005(平成17)年度からは、細街路の歩行空間整備が年次計画により進められている。

5. 特徴的手法

人間の生活を視野の中心において様々な事業を展開していることが大きな特徴である。今後の経済社会の変化に対応できる新たな生活空間として駅前が拠点的に整備され、その周辺においても歩行者のための空間整備や憩いの場の整備が進められている。公共と民間とが連携してハード事業、ソフト事業が展開されていることも特徴的である。

6. 課題

進行中または計画中の基盤整備、再開発事業等は事業規模の大きなものが多く、それらを効率的に進めるためには、市民、商店主、関係機関等の間での合意形成はもとより、民間の資金力、事業推進力、営業力等の有効活用に関する努力が引き続き求められるものと考えられる。

(参考・引用文献)

郡山市ホームページ

郡山市中心市街地活性化基本計画(2005年12月改訂)

国土交通省道路局「歩行者・自転車優先のみちづくりホームページ」「くらしのみちゾーン形成」